



年 組 名前

道新ワークシート

陛下「祝い」文言見送りへ

五輪開会宣言 政府と組織委調整

東京五輪開会式で大会名誉総裁の天皇陛下が述べる見通しの開会宣言について、政府と大会組織委員会が新型コロナウイルス禍を踏まえ、開催を祝う趣旨の文言を盛り込まない方向で調整を進めていることが20日、政府関係者への取材で分かった。

1964年の東京五輪では昭和天皇が「祝い」という文言を使った。今回は感染状況が急速に悪化する中、開催を巡り賛否が割れており、国民統合の象徴である陛下の宣言にも配慮が必要として、異例の判断を迫られたとみられる。

開催条件などを成文化した五輪憲章は、開会宣言は

国家元首が読み上げると規定。読み上げる例文も明示している。64年の東京大会では、名誉総裁の昭和天皇が日本語で開会を宣言。「第18回近代オリンピックアードを祝い、ここにオリンピック東京大会の開会を宣言します」と述べた。

憲章に従えば、今回も同様の表現になることが見込まれていたが、政府や大会組織委で協議。感染状況が悪化する中、祝祭感がある表現を極力抑える方向で調整を進めている。憲章では、式典の内容や詳細は、国際オリンピック委員会（IOC）の事前承認を得なければならぬともされている。英文の憲章では、宣言

の一部に「celebrating」が使われ、これまでの和訳では「祝い」と表現されている。今回の宣言では、英文から逸脱しない形での表現を探っている。

陛下は19年、五輪とパラリンピック両大会の名誉総裁就任が決まり、過去の例に倣い、今大会で開会宣言を読み上げる見通しとなっている。宮内庁は20日、天皇陛下が、23日の東京五輪開会式に出席すると発表した。開会式は新型コロナウイルス禍で出席者数を絞るため、皇后さまは出席しない。前日の22日には国際オリンピック委員会（IOC）のバッハ会長らと皇居・宮殿で面会する。

2021年7月21日（水）朝刊 全道版 総合 2P（記事は一部再編集しています）

- ①天皇がなぜ開会宣言から「祝い」という文言を見送ろうとしているのか答えなさい。
- ②日本国憲法では天皇はどのような地位となっているか、記事中から該当する言葉を書き抜きなさい。
- ③天皇が開会宣言の変更を行うに際し、大会組織委だけではなく、なぜ政府とも協議しなくてはならないのか答えなさい。